

令和5年度東京都入札監視委員会第2回制度部会（東京建設業協会との意見交換会）審議概要

開催日及び場所	令和6年1月24日（木） 東京都庁第二本庁舎 31階特別会議室 27
出席委員	愛知大学地域政策学部地域政策学科教授 齊藤 徹史 （元）品川リフラクトリーズ（株）代表取締役副社長 仲田 裕一 （敬称略・計2名）
審議事項	(1) 都の入札契約制度等に関する要望について (2) その他報告等
議案の概要	一般社団法人東京建設業協会からの都の入札契約制度等に関する要望について意見交換を行った。
委員会による審議結果報告	—
事務局からの報告	・「入札契約制度改革本格実施後の状況（5年経過）」について
委員からの意見等の概要	<p>(1) 一般社団法人東京建設業協会からの要望</p> <p>① 働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 適正な工期の確保と条件明示 ➢ 週休2日実施に伴う必要経費の引き上げ ➢ 標準歩掛の見直し ➢ 書類の削減・簡素化 ➢ 検査の効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 検査書類の削減について ・ 出来高数量計算書の取扱について ・ 出来形管理基準及び工事記録写真管理基準の撮影頻度について ・ 遠隔臨場等による電子検査の積極的活用等について <p>② 円滑な施工の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 工事請負契約設計変更ガイドラインの徹底 ➢ 工事発注に係る事前協議 ➢ 受発注者のコミュニケーションの改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発注者、設計者、施工者による三者会議について ・ 受注者からの質問に対する対応について <p>③ 入札契約制度の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 総合評価方式における課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 都発注工事の実績のない企業の受注機会確保について ・ 「配置予定技術者の実績点」等の配点について ・ 「事故及び不誠実な行為の実績点」の減点措置について ・ 「本店又は営業所所在地の実績点」等の配点について ・ 価格点算定式見直し前後の傾向について

- 低入札価格調査制度の厳格な運用
 - 配置予定技術者の最終確認時期について
 - 技術者育成モデル J V 工事について
 - 入札公告時における見積参考資料の提供
- ④ 建設キャリアアップシステムの普及促進
- ⑤ 公共工事代価の前払金における支払限度額及び割合の見直し

(2) 入札監視委員会制度部会委員からの質問等

【委員からの質問等】

入札契約制度改革 5 年後の状況について、基本的な指標である希望者や応募者が増えており、競争環境が整備されてきていると理解した。

技術者育成モデル J V 工事に関して、中小企業の技術力向上については、大企業と J V を組むことによる方法だけではなく、他の方法でも工夫ができないかと考えているが、都の考え方を伺いたい。

【東京都の回答】

技術者育成モデル J V 工事は、大企業が特に有する技術力を中小企業に学んでいただくことを趣旨として、実施しているものである。モデル工事の対象ではない通常の案件においては、中小企業同士での J V 結成も可能なので、状況に応じて技術力を学ぶ機会はあると考えている。

【委員からの質問等】

社会的に賃上げが言われている中、建設業界において、元請から一人親方に至るまで現場で働く方々の賃上げが求められているものと思う。業界としては、どのように取り組まれているのか、また、発注者への要望があれば教えていただきたい。

【業界団体の回答】

国の総合評価方式で賃上げしている場合には優遇措置を行っているが、基本的には各社が判断しながら対応しており、実際に加点されている事例も多数見られる。

一方、大企業と中小企業の格差が広がる可能性もあるなど、改善の余地はあると思っており、例えば、税制優遇措置で対応するなど別の方策は考えられないか、国に対して働きかけを行っているところである。

以上

[その他]

特になし